

文学

講座コード 2132

刀と日本人

— 文学研究とその方法論 —

講師：小川 和佑（元明治大学講師）

10月～12月 金曜日 13:00～14:30

12,000円（全6回）

● 講座趣旨

古典から近代までの日本文学のモチーフとなった桜と、そのもうひとつのモチーフ“刀剣”とを対比しながら、文学に見る日本のこころを明らかにする文学研究への方法の新しい試み。ベネゼクトの「菊と刀」を超える「桜と刀」による従来の文学研究では、未開拓の分野を開く日本学への試みである。この日本学は中世の「増鏡」より始め、記紀・万葉から江戸漢詩を経て近代文学に及び、現代最先端技術へと結びつく。そこに古代から現代に至る一線に連なる日本の心を考察する。

● 講義概要

- 第1講 「増鏡」の後鳥羽院 10月12日
歴史物語「増鏡」に抛りながら後鳥羽院と御番鍛冶の関係から美の殉教者としての院の姿を論じる。
- 第2講 名刀「菊一文字則宗」の成立と後鳥羽院 10月26日
なぜ院は御番鍛冶を定めたか。太刀の美とはなにかを伝来する東京赤坂の日枝神社の一文字則宗と二条家伝来の菊の御作を挙げて、古代以来の日本の刀剣信仰を明かにする。
- 第3講 古代人の刀剣観 11月9日
まず「平家物語」と海没の神剣の記述に見る古代神話の伝承。七支刀・稲荷山鉄剣の刻銘を文学的視線において読む。
- 第4講 天平の花と天平の太刀 11月16日
天平文化と「万葉集」の「高麗剣」という枕詞と東歌の太刀。聖武帝の治世と刀剣観を講義する。
- 第5講 桜文化の招来 11月30日
嵯峨帝の花宴「古今和歌集」検討と「源氏物語」の桜を通じて日本文化の基層を明らかにする。
- 第6講 桜文化から刀剣文化へ 12月14日
東西文化比較論。刀工集団と武士。桜文化への同化と平家物語。桜の時代終わる。以後、日本文化は桜と刀が並び立って現代に至る。その過程を明らかにする。

● 講師紹介



小川 和佑（おがわ かずすけ）

文芸評論家・東京電機大学講師。前明治大学文学部兼任講師。日本文芸家協会会員。1930年（昭和5）東京目黒生まれ。明治大学（旧制）文芸科卒。主著に『伊東静雄』（講談社）『三島由紀夫少年詩』（冬樹社）『立原道造詩集・全注訳』（明治書院）『桜の文学史』（朝日新聞社）『桜と日本人』（新潮社）『刀と日本人』（光芒社）『日本の桜・歴史の桜』（NHK出版）『東京学』（新潮社）『漱石「三四郎」の東京学』（NHK出版）。

● 関連図書紹介

もう一つの日本美—美こそ武を征する—

戦後多くの読者に深い影響を与えたベネゼクトの『菊と刀』、新渡戸稲造の『武士道』を超克する正統な「日本のこころ」を描いた新しい日本論。記紀神話、万葉集に日本人を見ながら、「美の殉職者」後鳥羽院を論じる。刀剣の王朝文化、桜文化を具現する院の理想から600年、再び武器になり幕末から近代に至る思想の象徴となった刀剣の数奇な運命を紐解きながら日本人を論じる文芸評論である。

「刀と日本人」

小川 和佑 著

光芒社 定価 1600円+税

